

「月食を撮る(6)」

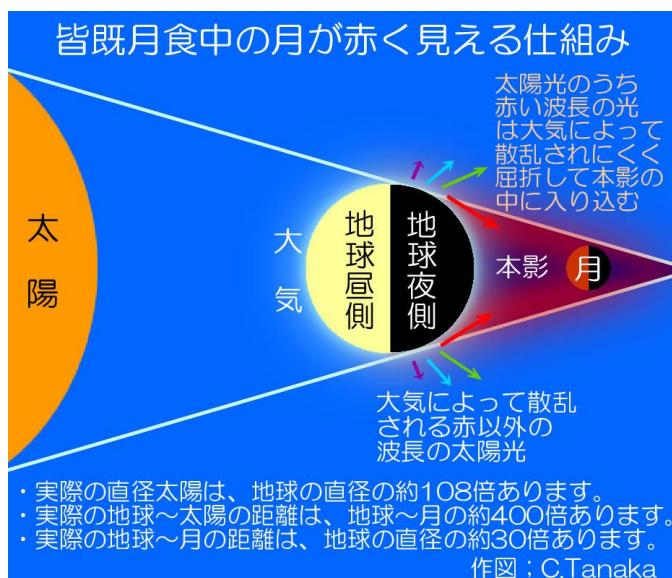
お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

皆既月食の最大の魅力は、やはり皆既中の「赤い月」である。あの立体感のある赤銅色の月は、数年に一度の皆既月食の晩にしか見られない、神秘的な満月だ。



地球の影(本影)に月が完全に入った状態が皆既月食である。それならば、月はまっ黒に見えるはずだ。しかし実際の皆既中の月は赤い。

「なぜ、月食の時の月って赤いんですか?」という3年生の質問に的確に答えるのは難しい。私は、まず自分自身が理解する為に、このような図を作図した。子どもたちにも、この図を使って説明した。



(2 ページ目に配布用拡大画像あり)

今回の日食は、皆既継続時間が1時間以上で、夜半前に起きた、極めて観望条件が良い月食だった。今年はまだ一度7月28日の明け方に皆既月食があり、アジア西部、アフリカ、ヨーロッパ南部でよく見える。日本ではあまり条件が良くなく、東京では皆既になった数分後に月が沈んでしまう。(これを月没帯食という) その次は2019年7月17日の部分日食、2021年5月26日には皆既月食があるが、皆既継続はわずか10分余りで条件は良くない。



(後樂園駅付近で撮影)

皆既が終了したので、職場の屋上をあとにして、帰宅途中で撮影を続けた。皆既後は、ほぼ天頂付近に見えたので、ビルの谷間から三脚なしで撮影できた。

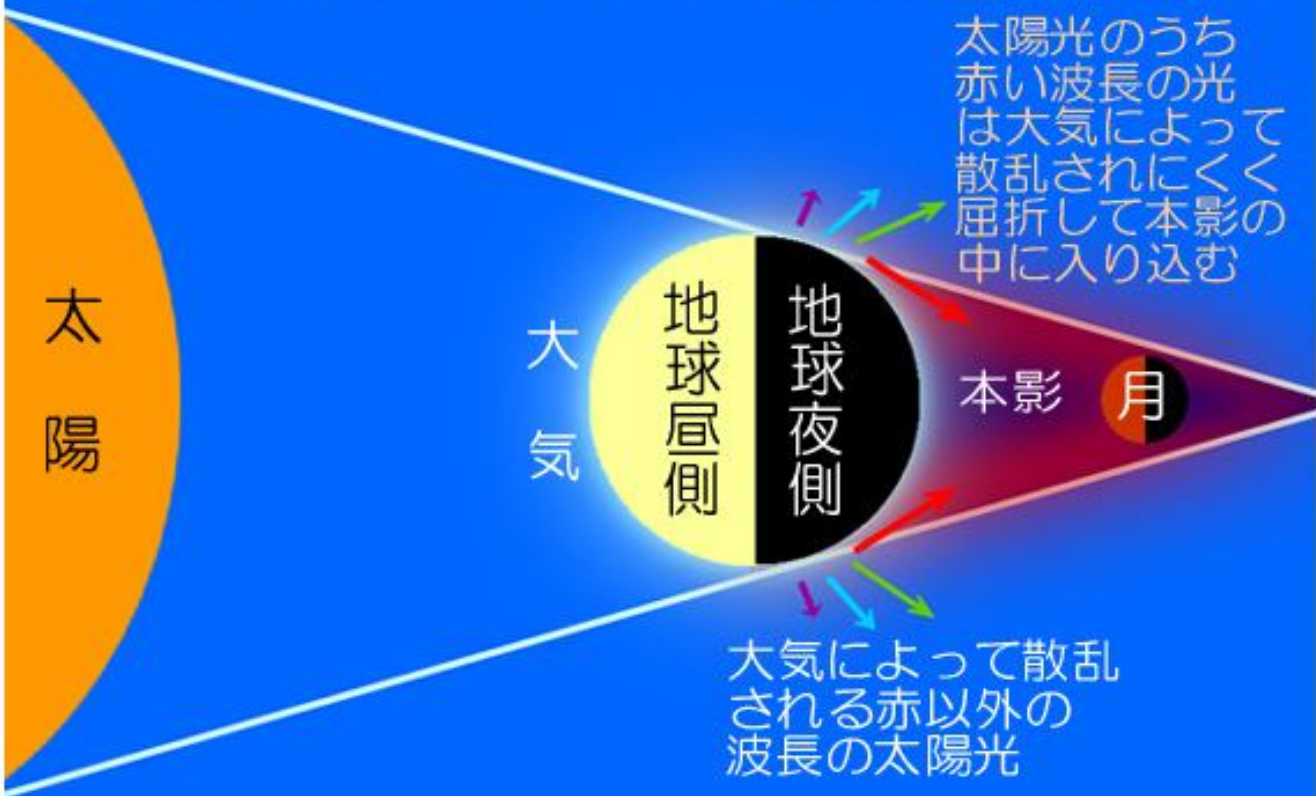


(大手町駅付近で撮影)



年 組

皆既月食中の月が赤く見える仕組み



- ・ 実際の直径太陽は、地球の直径の約108倍あります。
- ・ 実際の地球～太陽の距離は、地球～月の約400倍あります。
- ・ 実際の地球～月の距離は、地球の直径の約30倍あります。

作図：C.Tanaka